

沖繩作戰
二於九

第二十四師團防疲給水部 史實資料

昭和二十二年三月二十五日

第三十二軍 業務整理部

山竹第一二〇七部隊 戦闘經過ノ概要

一、昭和二十年三月沖繩本島周辺ノ情况ニ逼迫スルヤ山竹三四七六部隊ヨリ沖繩現地ヨリ
集兵約二〇〇名ノ轉屬ヲ受ケテ中隊ヨリ成ル患者收容隊ヲ編成ス

編成

- 第一中隊長 新堀大尉
- 第二中隊長 土佐准尉
- 第三中隊長 武内少尉
- 第四中隊長 黒澤中尉
- 第五中隊長 藤井准尉

二、昭和二十年四月中旬山竹三四七六部隊石部隊ニ配属セラレ第一線陣地ニ到リヤ部隊
ハ毎日患者收容隊ヲ出シ各大隊本部ヨリ首里赤田町ニ於テ一旦患者ヲ搬送シ應急
處置ヲ給テ等ヲ十三更ニ首里ヨリ東風平村ノ陣地壕内或ハ各野戰病院ニ患者
ヲ自動貨車ニヨリ運搬後退セシム

担架兵ノ犠牲ニモ拘ラズ寡兵ヨク三千ノ患者ノ後退ニ努ム
師團長ヨリ賞詞ヲ授與セラル

三、六日初中旬ニ到リ全軍島尻地区ヘノ後退ニ伴ヒ部隊ハ東風平村落ヨリ

南方約二里ノ真壁村ニ轉シ尚ホ患者收容ノ任務ヲ遂行シタリタル折六月十八日午前
十時頃敵軍部隊博息壤接近ニヨリ部隊長以下 殆ド全員 米須海岸或ハ
宇江城(当時ノ山部隊師團司令部所在地)方面ニ出動 各個ニ戦闘ヲシ以後
部隊ハ解散状態ニ立到リ

四、昭和二十年六月十日頃約百名(防護兵ヲ含)ノ下士官以下ヲ山第三四七四部隊ニ
轉属セシメ第一線ノ戦闘ニ参加セシム

部隊履歴ニ関スル件回答

昭和二十一年十一月二十日

村上友之助

第三十二軍残務整理部長殿

留三二残第一四三號ニ係ル照會ノ件左記ニ依リ回答申上ケマス

左記

一、部隊履歴(沖繩送駐迄ノ履歴)

昭和十六年閏特演ニ依リ関東軍防疫給水部林口支部ニ於テ部隊編成(滿洲

第一二七部隊)第三四師團ノ轄下ニ入ル。昭和十六年八月滿洲國東安省密山

縣西東安ニ駐屯爾後附近ノ警備勤務ニ從事ス。昭和十九年七月六日動員下令

同年同出發。同日支日釜山着。同日釜山港出帆。同日九州博多港着。

同年八月一日九州門司港出帆。同年八月七日沖繩縣那霸港上陸爾後中頭郡讀谷

山村字喜名附近防衛勤務ニ從事。此ノ間一。南西諸島空襲防衛。警備

地区変更ニヨリ昭和十九年十二月六日沖繩縣島尻郡東風平村ニ移駐附近ノ防

衛勤務

一、部隊ノ作戦開始時ノ編成(第三師團防疫給水部
第三四師團兼收容隊)

最少数員中隊級

第二十四師團 防疫給水部長 陸軍軍医少佐 金井泰清
 第二十四師團 防疫給水部副官 中尉 額田 秋
 (金井少佐は作戰開始時第二十四師團 是が收容隊長兼任)
 (額田中尉も患者收容隊長副官兼任)

防疫隊長 陸軍軍医大尉 新垣 正二
 患者收容隊長 中隊長 陸軍軍医中尉 黒澤 恭二
 給水隊長 陸軍軍医中尉 黒石 英次
 患者收容隊長 中隊長 陸軍軍医中尉 高島 忠雄
 第二十四師團 防疫給水部 兼患者收容隊長 陸軍中尉
 第二十四師團 衛生材主任 陸軍中尉
 第二十四師團 防疫給水部 兼患者收容隊長 陸軍中尉
 編成定員

編成定員
 二百四十八名ト知ルモ確 定ナラズ
 編成總員
 一百七十八名 其他現地防衛官 兵隊 一百五十名 既屬計 三百二十八名
 滿洲西東安出發時 編成總員 二百四十八名ナルモ昭和二十年三月十日軍令陸
 甲第三号ニ依リ師團編成替ハリ依リ搜索隊第二十四聯隊ニ下士官以下
 五十七名 工兵第二十四聯隊ニ兵十三名 轉屬セシメタルニ付念ノ爲

指揮系統 既屬關係

作戰開始前後 第二十四師團ノ隸屬トシテ在リテ 作戰開始前 昭和十九
 年八月津繩上陸後 同年十月五日迄 中頭郡讀谷山村字嘉平附近
 防衛時 中頭郡讀谷山村字石嶺久得ニ在リ 野砲兵第四十二聯隊ノ指
 揮ヲ受ケ
 島尻郡東風平村ニ移駐後ハ 歩兵第八十九聯隊(山三四七六部隊)ノ指揮ヲ
 受ケ
 作戰開始後

直接師團軍医部ノ指揮ヲ受ケルモ 昭和二十年六月十六日師團患者收
 容隊解散。人員數ハ失念スルモ 部隊長以下三十數名ヲ殘シ全員戰闘
 部隊ニ付クベク 山第三四七四部隊(歩兵第三十三聯隊)ニ配屬出發ス。
 (當時部隊ハ島尻郡眞壁村東北方約五十米ノ地ニ在リ 山第三四七四部
 隊ハ島尻郡眞榮村ニ在リ) 爾後防衛 召集兵ハ現地ニ於テ解散。
 部隊長以下三十數名ハ搜索隊第二十四聯隊長ノ指揮下ニ入ル

一 戰闘實施場所

昭和二十年三月二十四日 甲号戰備下令。昭和二十年四月七日 敵中頭
 郡嘉平附近ニ上陸ノ報ヲ受テ 出動準備ヲ完了 待機依然一部
 人員ヲ以テ 島尻郡東風平村附近ノ陣地構築ニ從事ス。
 昭和二十年四月十二日 師團前進ニ伴ヒ 部隊ヲ首里市赤田町南

側陣地ニ進出シ爾後患者收容並ニ野戰病院ハ後退ニ任ズ(森田町南側陣地ヲ患者收容振興トシ前線ハ担架中隊出動傷者ヲ担送ニ任ズ振興ヨリハ部隊自動負車十輛其ノ他輜重兵第三十四聯隊ノ空車利用各野病ハ後送ス)又一部人員ヲ以テ東風平附近ノ敵空挺部隊ノ來襲ニ備フ。昭和二十年六月一日戰闘最悪リ敵空挺入師團島尻最南端ヘノ轉進ニ伴ヒ部隊モ亦島尻郡真壁村東方五十米ノ地莫ニ轉進依然患者收容ニ任ズ(島尻轉進時各戰闘部隊ノ後退ニ依リ戰闘裝備十キ部隊ノ傷者收容ハ敵侵入地ニハ進出セズハナラズトシ語ニ絶スル苦難ヲ嘗ナリ)。昭和二十年六月十二日部隊ハ患者收容部隊ノ任務解散部隊長以下三十數名ヲ残シ全員山第三四七四部隊ニ配屬。六月十七日十八日ノ島尻郡真壁里ニ於テ戰闘ニ依リ概シ全員戰死ス。昭和二十年六月十八日豫テ搜索隊隊長ニ指示セラレタル真壁村ハ十五高地ノ并備ニ就ク。昭和二十年六月二十二日部隊生存者概シ全員玉碎。

一個人ノ功績顯著ナル者

將校(戰死者)

(判定ハ生存者一同見テ健ナルモ將校生存者) (武成少尉ヨリハ聞クテナシ)

判定

- | | | | |
|-----|--|-------------------------|-------|
| 7/8 | 防疫隊長
兼患者收容隊第一中隊長
防疫給水部
患者收容隊 副官
防疫給水部 經理部長
即團衛材主任
部隊資材隊長
給水隊長
兼患者收容隊第二中隊長
給水隊付患者收容
第二中隊第一小隊長 | 陸軍軍醫大尉
(若ク前線ニ出動シ居ラズ) | 新堀正二 |
| 1/8 | 防疫給水部 副官
患者收容隊 經理部長 | 陸軍軍醫中尉 | 額田 秩 |
| 6/8 | 即團衛材主任
部隊資材隊長 | 陸軍主計中尉 | 高島忠四雄 |
| 5/8 | 給水隊長
兼患者收容隊第二中隊長 | 陸軍藥劑中尉 | 黒石英次 |
| 2/8 | 給水隊付患者收容
第二中隊第一小隊長 | 陸軍軍醫中尉 | 黒澤恭二 |
| 4/8 | 部隊衛材係官 | 陸軍軍醫少尉 | 田中二郎 |
| 8/8 | 部隊人事係
指揮班長 | 陸軍衛生部員曹長 | 崎 照二 |
| 3/8 | 准士官 | 陸軍衛生推尉
(上級職) | 田中完三 |
| 1/2 | 防疫隊附患者收容隊
第二中隊第三小隊長 | 陸軍衛生推尉 | 土佐貞雄 |

2/2 給水隊附患者收容隊
第三中隊第三小隊長

下士官

患者收容隊
第一中隊第三小隊長

部隊兵醫係
兼自動貨車小隊長

部隊經理助手

担架分隊長

部隊炊事班長

部隊炊事班長

部隊衛材係
兼部隊連絡係

自動貨車修理班長

担架分隊長

同

陸軍衛生中尉 藤井一一

陸軍衛生曹長 梅野政吉

陸軍兵技曹長 五十嵐重軍

陸軍主計曹長 佐々木榮

陸軍衛生曹長 中田記太郎

陸軍衛生軍曹 中堂秀二

陸軍療工軍曹 一重賢司

陸軍兵技軍曹 原田 玄

陸軍輜重軍曹 米田一夫

陸軍輜重軍曹 金田義輝

陸軍衛生軍曹 泉村吉成

5/33 担架分隊長 陸軍衛生軍曹 中村泉水

20/33 部隊傳令班長 同 桐木豊秋

3/33 同 同 藤井 信

10/33 担架分隊長 同 丹羽源彌

21/33 同 同 岡田慎市

6/33 同 同 平島豊作

33/33 部隊衛材係 陸軍衛生軍曹 南部一男

14/33 担架分隊長 同 尾崎政雄

15/33 部隊連絡係 同 岩崎泉雄

26/33 担架分隊長 同 三上敬一

25/33 同 同 水野作藏

32/33 同 同 藤本幸枝

16/33 同 同 澤田正雄

陸軍輜重兵伍長

29/33	自動貨車護道係	陸軍兵技係長	東前忠正
8/33	部隊連絡係	陸軍輜重兵係長	山口敏子代
30/33	担架分隊長	同	大貫宗三郎
9/33	自動貨車分隊長	同	高橋三善雄
7/33	同	同	安藤徳一
22/33	炊事班長	同	阿部忠次郎
27/33	担架分隊長	同	仙北谷秀一
28/33	部隊連絡係	同	田中吉繁
17/33	担架分隊長	陸軍衛生係長	谷野晃
23/33	同	同	佐々木週造

軍屬

2/2	部隊經理官	陸軍屬	大久保傳
1/2	担架分隊長	陸軍技手	上田義雄

判定(判定=関三、困難此為概不殊勲甲卜認定者三記載)

担架兵	陸軍兵長	阿部正
担架長	陸軍衛生兵長	上野晴美
担架兵	同	上田勇
自動貨車運轉手	陸軍兵長	奥瀬正治
担架手	陸軍上等兵	小倉茂雄
炊事要員	陸軍衛生兵長	神田信吉
担架分隊長	陸軍兵長	北川信美
炊事要員	陸軍衛生上等兵	木田清

担架長	陸軍衛生兵長	佐々木仁太
同	同	佐藤千代己
同	陸軍衛生上等兵	佐々木高雄
運轉手	陸軍兵長	竹村 猛
担架長	陸軍衛生上等兵	立川 昇
担架兵	陸軍衛生一等兵	田仲康茂
担架長	陸軍衛生兵長	手塚正行
部隊傳令	同	南日信次
担架長	同	中井宗吉
患者救護班員	同	原田 寛
担架兵	同	三野 薫
担架長	同	矢野清美

担架長 陸軍衛生上等兵 山井秀吉
 担架手 同 杉本 勇
 部隊傳令 陸軍上等兵 鈴木正夫
 同 陸軍衛生兵長 眞鍋榮作

(以上人員八昭和二十年六月十六日部隊解散迄又六月二十三日部隊卜運
 命ヲ俱ニスル迄戦死ノ確認セラル) 部隊解散後山崎三四七四部隊ニ配属戦死確認ノナキ者ノ中解散前功
 績顕著ナル者左記ニ記入ス

左記

担架分隊長	陸軍衛生兵長	小椋周治
部隊傳令	同	富土原浩夫
患者救護班班長	同	中野忠吉
部隊傳令	同	朝来野増己

担架長	陸軍兵長	杉本勝美
運轉手	同	石澤元太郎
同	同	高橋徹藏
部隊傳令	同	山林 弁
担架長	同	對島 榮
運轉手	同	西尾 岩男
運轉助手	陸軍上等兵	中井輝夫
同	同	根本滿雄

拜復 留三ニ殊効第一四三三ノに關する部隊履歴等ニ關する件 左記の通り小生の知れる範圍内に於て御通知致しますが、確實なる事は部隊先任生存者武取四郎氏(元軍医少尉岡山縣兒島郡味所味町)及部隊本部功績係下士官村上友之助氏(北海道小樽市真笠町畑一三)に御問合せになれば全てが明白と存じます故事務敘系多に御手数とは存じますが照会相成度御頌致します。

左記

(第二四師團防疫給水部關係分)

一、部隊の履歴

- 一、昭和十六年七月二十日(第一二四師團防疫給水部として編成) 完結
- 二、自昭和十六年八月五日 滿洲國東安省西東安附近防衛(此の向主として師團防疫並に給水に任ず)
- 三、至十九年七月十日 動員完結
- 四、昭和十九年七月十一日 滿洲國東安省西東安出發
- 五、" " " " 金山港出帆
- 六、" " " " 門司港出帆
- 七、" " " " 沖繩縣那霸港着
- 八、" " " " 中頭郡讀谷山村喜名附近防衛(此の向八月十五日—十月三十日まで臨時野戰病院開設)
- 九、" " " " 十二月五日